

平成 29 年 9 月 1 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 細野 宗宏
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
台湾 CPC 向け LNG 船の命名式について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリア連邦において操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーと共にイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めておりますが、今般、本プロジェクトから生産されるLNGのうち、LNG売買契約を締結している台湾中油（CPC Corporation, Taiwan、以下、CPC）（※）向けLNG年間175万トンの輸送を担うLNG船（以下、本船）の建造作業が完了し、本日、命名式が本船の建造地である川崎重工業株式会社（以下、川崎重工）の坂出工場（香川県坂出市）にて執り行われましたので、お知らせいたします。

（※）CPC との LNG 売買契約の締結について、当社は 2012 年 1 月 10 日にプレスリリースを行っています。（<http://www.inpex.co.jp/news/pdf/2012/20120110-a.pdf>）



「命名式 式典」

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

命名式は、CPC幹部を始め本プロジェクトに関わる多数の来賓のご臨席の下執り行われ、本船は「パシフィック・ブリーズ（PACIFIC BREEZE）」と命名されました。当社からは北村代表取締役社長が出席しました。

本船は、川崎汽船株式会社（以下、川崎汽船）の子会社であるPacific Breeze LNG Transport S. A.社（以下、PBLT社）をオーナーとして川崎重工との造船契約に基づき新造されたもので、本プロジェクトからの生産開始に合わせて就航が予定されています。当社は、子会社であるインペックス・ SHIPPING株式会社（以下、IS社）を通じて、本プロジェクトのパートナーであるトタル社の子会社と共に共同出資会社IT MARINE TRANSPORT PTE. LTD.社（IS社：68.77%、トタル社子会社：31.23%。以下、ITMT社）を2013年5月8日に設立し、ITMT社を通じてPBLT社との間で本船の定期傭船契約を締結しています。

全長約300メートル、全幅約52メートルの大きさを誇る本船は、モス方式LNG船では世界で初めて（ガスと油の両方を燃料とするディーゼルエンジンによる）電気推進方式を採用しており燃費性能において優れています。また、約182,000立方メートルのタンク容量を有し、モス方式LNG船では世界最大級の船型です。

当社は更に、本プロジェクトから生産されるLNGのうち、自社引き取り分のLNG年間90万トン当社の直江津LNG基地（新潟県上越市）に輸送するためのLNG船1隻を川崎汽船と共同で保有するため、川崎汽船との共同出資会社Oceanic Breeze LNG Transport S. A.社（IS社：30%、川崎汽船：70%。以下、OBLT社）を2013年4月4日に設立し、OBLT社と三菱重工業株式会社（以下、三菱重工）との間で造船契約を締結していますが、このLNG船は現在、三菱重工の長崎造船所にて建造の最終段階を迎えています。

当社は、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府及び北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：62.245%）としてトタル社（同：30%）、台湾中油（CPC、同：2.625%）、東京ガス（同：1.575%）、大阪ガス（同：1.2%）、関西電力（同：1.2%）、JERA（同：0.735%）及び東邦ガス（同：0.42%）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間890万トンのLNG及び年間165万トンのLPGとして生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）等から日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクト

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

は、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業等の開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。今後、現地にて沖合施設の設置作業やコミショニング作業を行い、井戸からの生産を開始します。以降、2018年3月期中にコンデンサート・液化天然ガス（LNG）・液化石油ガス（LPG）の生産を順次開始し、その後、生産物を出荷していく予定です。